

自然史標本の保存・蓄積に向けた活動と 博物館施設の活動の活性化

自然史探偵団 農学部・森山優海 顧問：竹原明秀

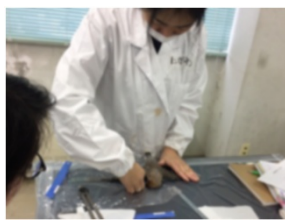
背景

岩手県は自然が豊かな地域である。しかし、脊椎動物に関する自然史標本の収蔵数は多くはないことが昨年アンケート調査で分かった。自然史標本を収集蓄積することは岩手の自然史の記録の手段として有効である。脊椎動物標本が少ない理由として考えられるのは、骨格標本作成には専門的な知識が必要であり、岩手にはその知識を持った人が少ないことがあげられると考えられる。

自然史探偵団は普段の活動として骨格標本作成をおこなってきた。博物館の自然史標本の保存・蓄積に協力できるのではないかと。

活動Ⅰ 標本作成講座

- ・2020.2.3
- ・目的 博物館施設職員の方や、標本作成に意欲的な一般の方が自地域の自然史標本を自分たちの力だけで自給的に収集・蓄積・保存できるだけの技術、ノウハウを得る。
- ・講師になにわほねほね団・団長の西澤真樹子氏を迎えておこなった。
- ・内容 骨格標本作成の一連の流れ（中型哺乳類）
鳥類の剥製作成の流れ
骨格標本を作るうえでの衛生管理
標本の保存・管理方法
動物の収集場所や胃内容物からその動物の考察



活動Ⅱ うしはく探検隊

- ・2019.11. 3
- ・概要 うしはく探検隊は奥州市牛の博物館が実施している子供向けイベント。今年の自然史探偵団のプログラムのテーマは「種間相互作用」というのを与えられた。
- ・場所 奥州市牛の博物館
- ・来館者 約340名
- ・提供プログラム名「森の動物とクルミの写真立て」
- ・概要 リスとネズミのクルミ食痕を紙芝居・実物を用いて解説したのちにそれらを用いてオリジナル写真立てを作った。会場にはリスの剥製や骨格標本を置いて実物を観察してもらった。



活動Ⅲ 自然史標本所持数アンケート 活動Ⅳ ニホンカモシカ頭骨標本作成

- ・目的 昨年度のアンケート調査で岩手の博物館施設、25か所に自然史標本が収蔵されていることが分かった。しかし、その総量（脊椎動物）は十分ではなかったと思われる。継続して自然史標本の収蔵数を記録することで岩手の自然史標本の収蔵数の推移、保存状況を知り、自然史標本の普及・啓発に役立てる。
- ・概要 岩手県内の博物館施設の今年度の自然史標本の収蔵数、内訳を調査
- ・目的 奥州市は北上山系と奥羽山系に挟まれ、それぞれの遺伝的に異なるニホンカモシカの集団がみられる。奥州市牛の博物館と協力して奥州市におけるカモシカ群の標本作製して自然史記録を残す。
- ・概要 カモシカ頭部を標本化する作業を奥州市牛の博物館とともに行う

活動Ⅴ 標本作成

- ・目的 団員の標本作成のスキルアップ
岩手県内の自然史標本収集
- ・内容 骨格標本作成
胃内容物や寄生虫の液浸標本
毛皮等

今後

- ・標本作成に関する技術は、まだまだ普及する必要がある。牛の博物館が行っている自主練習会に参加するなど他団体と一緒に標本を作る機会を増やす。
- ・奥州市牛の博物館とは来年度以降もうしはく探検隊やニホンカモシカ頭骨の標本作成は継続して行っていく。他の博物館ともワークショップなどで関係を築きたい。
- ・今までの活動で得た知識や西澤真樹子氏から教わったことをよりたくさんの人に還元し、岩手の自然史標本の蓄積に貢献したい。
- ・団体としてもより多くの良い自然史標本を残し、その魅力を多くの方に伝えられるような活動をしていきたい。

まとめ・課題

- ・学外の方と協力、交流しつつ活動できた。
- ・活動Ⅰでは大きな怪我無く講座を進めることができた。また、西澤真樹子氏の標本作成の技術を間近に見ることのできる良い機会となった。一方、参加人数が振るわなかった。宣伝方法・期間に改善の余地あり。
- ・活動Ⅱでは、子供が対象であったが怪我無く安全に進められた。また、実際の動物を近くで観察したことでより興味を持ってくれたように感じた。